



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年2月7日

上場会社名 ナカバヤシ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7987 URL https://www.nakabayashi.co.jp/
 代表者(役職名) 取締役社長 (氏名) 湯本 秀昭
 問合せ先責任者(役職名) 常務取締役管理統括本部長 (氏名) 作田 一成 (TEL) 06-6943-5555
 四半期報告書提出予定日 2020年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	48,036	3.1	1,211	11.7	1,483	5.3	942	2.5
2019年3月期第3四半期	46,593	10.0	1,084	△27.4	1,408	△22.1	920	△6.4

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 1,119百万円(73.5%) 2019年3月期第3四半期 645百万円(△55.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	36.62	—
2019年3月期第3四半期	35.31	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	55,753	25,876	42.8
2019年3月期	55,240	25,317	42.4

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 23,859百万円 2019年3月期 23,396百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	10.00	—	12.00	22.00
2020年3月期	—	10.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	12.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	65,000	1.5	3,200	53.1	3,600	45.9	2,000	27.7	77.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	28,794,294株	2019年3月期	28,794,294株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	3,030,301株	2019年3月期	3,064,682株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	25,750,337株	2019年3月期3Q	26,064,221株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等へのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる仮定及び業績予想に関する注記事項等につきましては、3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
3. その他	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移いたしましたが、米中貿易摩擦の長期化、中国経済の減速、英国のEU離脱などの影響による世界経済の不確実性もあり、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループの当第3四半期連結累計期間における売上高は、ビジネスプロセスソリューション事業の増収や2019年1月にM&Aにより連結子会社となった株式会社ビックスリーの業績の寄与などにより、前年同四半期比3.1%増の480億36百万円となりました。

利益面では販売費及び一般管理費が増加したものの、売上高の増加や原価率の低下により、営業利益は12億11百万円（前年同四半期比11.7%増）、経常利益は営業外収益が減少したものの、営業利益の増益もあり14億83百万円（前年同四半期比5.3%増）となりました。

また、特別利益は投資有価証券売却益98百万円など合計で1億15百万円を計上し、特別損失は投資有価証券評価損17百万円など合計で24百万円を計上いたしました。この結果、法人税等税負担調整後の親会社株主に帰属する四半期純利益は9億42百万円（前年同四半期比2.5%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

①ビジネスプロセスソリューション事業

データプリントサービス部門は官公庁や民間企業からのBPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）業務の受注が順調に推移しており、シール印刷やラベル紙などの売上高も増加いたしました。BPO業務の拡大に伴い、千葉県印西市に連結子会社である日本通信紙株式会社のBPOセンターを新設（同社柏IPセンターを移転）するなど設備の拡充を図りました。図書館ソリューション部門は製本単価の見直しや公共図書館の指定管理、アウトソーシング業務、書籍移動などの受注獲得に引き続き努めました。手帳部門は法人向け年玉手帳の受注冊数は減少いたしました。なお、新しい取り組みとして現在社会的に関心が高まっているプラスチックの削減「脱プラ」対策を検討している企業向けに、食用でんぷんのり100%を使用した国産紙ストローの生産を開始いたしました。

この結果、当事業の売上高は270億9百万円（前年同四半期比3.2%増）、営業利益は4億88百万円（前年同四半期比110.9%増）となりました。

②コンシューマーコミュニケーション事業

ノートはロジカルノートの新デザイン、新カラーを投入するとともに、環境配慮型商品として綴じ具が紙でできたリングノート「ロジカル・ペーパーリングノート」を新発売いたしました。アルバムは画像専用ストレージアプリ「Fueru アルバム」の様々な自動作成機能を追加しユーザー拡大に努めました。また、高級筆記具ブランド「TACCIA」から万年筆の新コレクションや万年筆用インク「リップカラーインク」を新発売いたしました。しかし、アルバム、ステーションナリー関連商品の売上高は店頭市場の低迷により減少いたしました。一方、PC関連商品については「高速スクロール静音5ボタンBlueLEDマウス」が「2019年度グッドデザイン賞」を受賞するなど堅調に推移いたしました。なお、2019年1月に新たに連結子会社となった寝具のネット販売を営む株式会社ビックスリーの業績が寄与いたしました。

この結果、当事業の売上高は145億86百万円（前年同四半期比4.4%増）、営業利益は5億76百万円（前年同四半期比18.2%減）となりました。

③オフィスアプライアンス事業

シュレツダは官公庁や大手民間企業などを中心に受注獲得に努めるとともに、メンテナンス契約の強化に取り組みました。また、機密文書回収ボックスやパワーインジケーターなどの販売にも注力いたしました。オフィス家具は商品の拡充により売上高は増加し、経費も増加しましたが原価率が低下し、採算性は若干向上いたしました。病院向けの点滴スタンドやカルテワゴンなどのメディカル商品の売上高は安定した受注により堅調に推移いたしました。

この結果、当事業の売上高は52億63百万円（前年同四半期比1.9%増）、営業利益は2億31百万円（前年同四半期比1.1%増）となりました。

④エネルギー事業

太陽光発電は概ね計画通り稼働いたしましたが、連結子会社の松江バイオマス発電株式会社が営む木質バイオマス発電については、設備の一部故障により稼働が一時停止したため、売上高、営業利益が減少いたしました。

この結果、当事業の売上高は10億75百万円（前年同四半期比10.9%減）、営業利益は1億21百万円（前年同四半期比31.7%減）となりました。

⑤その他

野菜プラント事業及びにんにくファーム事業等であり、売上高は1億円（前年同四半期比20.9%増）、営業損失は23百万円（前年同四半期営業損失21百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて4億93百万円減少し、265億39百万円となりました。これは商品及び製品が10億77百万円増加しましたが、現金及び預金が13億99百万円減少したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて10億7百万円増加し、292億13百万円となりました。これは建設仮勘定が4億97百万円減少しましたが、建物及び構築物が11億84百万円、機械装置及び運搬具が1億88百万円、土地が2億53百万円それぞれ増加したことなどによります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べて5億13百万円増加し、557億53百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて41百万円増加し、186億円となりました。これは支払手形及び買掛金が5億44百万円、未払法人税等が3億44百万円、賞与引当金が3億8百万円それぞれ減少しましたが、短期借入金が11億8百万円、預り金（流動負債の「その他」）が1億9百万円それぞれ増加したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて87百万円減少し、112億76百万円となりました。これは長期借入金が69百万円減少したことなどによります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて45百万円減少し、298億77百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて5億59百万円増加し、258億76百万円となりました。これは利益剰余金が3億76百万円増加したことなどによります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は42.8%となり、前連結会計年度末に比べて0.4ポイント上昇いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年5月14日発表時の業績予想の修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,299	4,900
受取手形及び売掛金	10,997	10,120
商品及び製品	5,605	6,683
仕掛品	622	959
原材料及び貯蔵品	1,447	1,586
その他	2,062	2,292
貸倒引当金	△1	△2
流動資産合計	27,033	26,539
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,811	6,995
機械装置及び運搬具（純額）	5,270	5,459
土地	10,622	10,876
建設仮勘定	672	175
その他（純額）	222	267
有形固定資産合計	22,599	23,773
無形固定資産		
のれん	688	530
その他	330	307
無形固定資産合計	1,019	838
投資その他の資産		
投資有価証券	2,695	2,737
退職給付に係る資産	319	389
繰延税金資産	593	482
その他	982	997
貸倒引当金	△4	△4
投資その他の資産合計	4,587	4,602
固定資産合計	28,206	29,213
資産合計	55,240	55,753

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,482	5,937
短期借入金	5,826	6,935
未払金	3,197	3,141
未払費用	427	439
未払法人税等	522	177
賞与引当金	655	347
その他	1,448	1,621
流動負債合計	18,559	18,600
固定負債		
長期借入金	7,105	7,035
退職給付に係る負債	3,390	3,399
繰延税金負債	393	374
その他	474	467
固定負債合計	11,363	11,276
負債合計	29,922	29,877
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,666	6,666
資本剰余金	8,758	8,759
利益剰余金	8,985	9,361
自己株式	△1,566	△1,549
株主資本合計	22,843	23,237
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	579	648
繰延ヘッジ損益	16	19
為替換算調整勘定	84	70
退職給付に係る調整累計額	△128	△117
その他の包括利益累計額合計	552	621
非支配株主持分	1,921	2,017
純資産合計	25,317	25,876
負債純資産合計	55,240	55,753

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	46,593	48,036
売上原価	35,328	36,146
売上総利益	11,265	11,889
販売費及び一般管理費	10,180	10,678
営業利益	1,084	1,211
営業外収益		
受取賃貸料	100	89
受取配当金	84	70
受取保険金	122	92
その他	138	139
営業外収益合計	445	391
営業外費用		
支払利息	49	46
貸与資産諸費用	23	21
その他	47	51
営業外費用合計	120	120
経常利益	1,408	1,483
特別利益		
固定資産売却益	1	15
投資有価証券売却益	316	98
補助金収入	22	1
匿名組合清算益	64	—
特別利益合計	404	115
特別損失		
固定資産処分損	26	7
投資有価証券売却損	3	0
投資有価証券評価損	—	17
本社建替関連費用	91	—
特別損失合計	122	24
税金等調整前四半期純利益	1,691	1,574
法人税、住民税及び事業税	525	463
法人税等調整額	160	59
法人税等合計	685	523
四半期純利益	1,005	1,050
非支配株主に帰属する四半期純利益	85	107
親会社株主に帰属する四半期純利益	920	942

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	1,005	1,050
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△437	69
繰延ヘッジ損益	52	2
為替換算調整勘定	△10	△14
退職給付に係る調整額	36	12
その他の包括利益合計	△359	68
四半期包括利益	645	1,119
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	579	1,011
非支配株主に係る四半期包括利益	65	108

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

3. その他

(公正取引委員会による立ち入り検査について)

当社は、2019年10月8日、日本年金機構の入札に関して独占禁止法違反の疑いがあるとして、公正取引委員会による立ち入り検査を受けました。当社といたしましては、今回、立ち入り検査を受けた事実を厳粛に受け止め、公正取引委員会の検査に全面的に協力してまいります。今後の進展につきましては、判明次第開示してまいります。